

サイレージの取り出し方法について

今年度産のサイレージが開封される頃になりました。

収穫からサイロへの貯蔵はうまくできて、取り出し方で失敗しては元も子ありません。今回は変敗しないサイレージの取り出し方法についておさらいしてみたいと思います。

一 サイレージが変敗する要因

サイロが変敗する要因として、開封後にサイレージ中に存在する好気性菌が動き出すことが挙げられます。

菌や酵母が活動することによって、カビを産生し発熱します（写真一）。カビは毒を産生し、牛の体調を崩す要因となります。



写真一 サイレージのカビ

二 サイレージの取り出し方

○課題

現場では冬期間であってもサイレージが発熱していたり、カビがみられることがあります。

表面を触ると冷たくても、中の温度は高く、変敗に気づかないことがあります（図一）。この例では放射温度計を使って、表面から奥に向かって温度を測定しました。奥に進むにつれて発熱していることがわかりました。取り出し面を見るとばさばさになっており、空気が中に入ると取り出し方になっていました。



図一 内部の発熱状況

発熱の程度は外気温より、 10°C 以内が目安です。

○対応

取り出し機械にバケットを使っている場合は、下からあおる

ように取り出すと空気が入りやすくなります。上から下にそぎ落とすようにすると、空気の進入を最小限に抑えることができます。作業時間は伸びますが効果的です。

また、状況によってはサイレージカッターの使用もご検討ください（写真二）。



写真二 サイレージカッター

重しはなるべくぎりぎりまで取り除かないようにします。重しのタイヤをバケットで、ぎりぎりまで奥の方に押し込んでいく事例もあります。

三 サイレージの取り出し速度

○課題

取り出し速度が遅くて、変敗する例もみられます。

・給与する頭数に対して使用量

が少ない

・使用するサイロの数が多くて取り出し量が少ない

・サイロの断面が大きすぎて奥に進まない（写真三）。



写真三 大きすぎるサイロ

○対応

取り出しの長さが一日20cm以上になるようにしましょう。使用するサイロの本数、断面の大きさ等を考慮して貯蔵することが重要です。

また、一日の取り出し面がサイロの全面になるようにしましょう。

収穫貯蔵したサイレージの品質を維持し、変敗無く給与できるように是非ご参考ください。

（平成二十六年十二月作成）